

インターバンクの声（2017年11月17日）

前日のニューヨーク市場の朝方には久しぶりに112円50銭を割り込み、円高バイアスが強まりそうな円相場だったが、昨日は一日中113円を中心にした小動きに終始した。東京時間、マイナスで始まった日経平均も昼前から大きく反発、300円超上昇して引けた。その後、欧州株価も反発、米長期金利も上昇したため、ロンドン市場の午前中に113円30銭台までドルが上昇した際にはもう一段ドル買いが進むかと思われたが、上値追いはなかった。逆にそこから112円70銭台に反落。米雇用関連指標やフィラデルフィア連銀製造業指数が市場予想を下回り、米金利が低下し始めたことなどが影響したようだ。ドイツでの新政権樹立に向けた連立交渉が難航し、ユーロが軟調となってユーロ円の下げ足が速くなったことも円買いにつながっていた。それでも米議会下院で共和党がまとめた税制改革法案が可決されたことが伝わり、ニューヨーク市場終盤には113円ちょうど近辺に戻した。ただ、市場の相場観はまちまちで、しかも113円付近が足元の相場の中立水準との認識も強く、何かインパクトのある材料が出てこないと暫くレンジ相場からの離脱は難しそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。